

徳大病院

102歳の心臓手術成功

先端治療 TAVI 最高齢事例に並ぶ

徳島大学病院が、心臓の病気「大動脈弁狭窄症」を大動脈弁が硬くなることで発症した102歳の男性患者に対し、血管にカテー



カテーテルを使った心臓の先端手術で人工弁を取り付けた米田さん(左)と診察する伊勢医師＝徳島市の徳島大学病院

ルを挿入して人工弁を取り付ける先端手術を2月に行い、成功した。同病院によると、同じ手術では、2019年に昭和大学江東豊洲病院(東京)で行われた事例や15年に台湾の病院で報告された事例と並び、国内外の最高齢。

患者は石井町高原の米田義美さん(103)で、2月病院は、開胸手術に比べ

て体への負担が小さいTAVIを検討。同病院での例で最高齢だった96歳を上回っていたが、心臓以外に目立った疾患がなく、体力的な問題もなかったため、手術を決めた。

同病院は17年度からTAVIを始めた。心臓血管外科や循環器内科などに所属する医師や看護師、技師ら約20人で専門家グループ「ハートチーム」を結成。専門分野の知識や経験を融合し、手術の計画作りから術中の連携、術後のケアまで一貫して取り組んでいる。現在ではほぼ週1回の手術を実施。当初2時間程度だった所要時間は約1時間に短縮され、患者の負担軽減につながっている。

大動脈弁狭窄症 心臓と大動脈の間にある弁が石灰化などで硬くなり、弁の開閉が制限されるため血液の通り道が狭くなる病気。重症化すると、動悸(どうき)や息切れ、疲れやすいといった症状につながる。重症患者の5年生存率は20%。75歳以上の重症患者は国内で約3300人。治療は人工心肺装置を使って心臓を止

め、人工弁などに置き替える開胸手術が基本だが、80歳以上の体力のない患者は難しい。TAVIは主に80歳以上が対象で、年齢の上限はない。開胸手術が5〜6時間かかるのに対して約1時間で済み、カテーテルを入れる傷口が数センチとどまるため体への負担が小さい。人工弁の寿命は10年程度で、開胸手術とほぼ同じ。

1週間ほどで退院した米田さんは歩行中の息切れがほとんどなくなったといい、「手術を受けて良かった。家庭菜園にも取り組みたい」と意欲を見せる。伊勢医師は「高齢を理由に手術を諦めている患者は多い。100歳を超えても治療できる可能性があるので相談してほしい」と話した。

(南志郎)